

Symposium des Deutsch-Japanischen philosophischen Austausches

— aus Anlass des Kyoto-Besuchs von:

Herrn Prof. Dr. Rolf Elberfeld (Universität Hildesheim)

und

Herrn PD Dr. Niels Weidtmann (CIIS der Universität Tübingen)

「哲学 — それは何であるのか」

„Was ist/ sind das – die Philosophie/Philosophien?“

Zeit (時) : 2024, den 18. März, 14: 00 – 18:00

Ort (所) : Goethe Institut Villa Kamogawa
ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

Sprache (言語) : Deutsch (und Japanisch)

Öffnung mit "Jodel und Shōmyō",
gesungen von Dreen Kutzke (Fellow der Villa Kamogawa)

開会: 「ヨーデルと声明」 歌唱: ドレーン・クツケ (ヴィラ鴨川 フェロー)

Vortrag (提題) :

Rolf Elberfeld ロルフ・エルバーフェルト

„Über weite und enge Bedeutungen des Wortes „Philosophie“ —
Oder: Woran orientieren wir uns im Philosophieren?“

「広義と狭義の「哲学」について — あるいは、
われわれは哲学するとき何に定位しているか」

Niels Weidtmann ニルス・ヴァイトマン

„Philosophieren heißt sehen lernen — Anmerkungen zu einem
pluralen und tätigen Philosophieren“

「哲学することは、見ることを学ぶことである — 複数の行為的哲学への注」

Moderation (司会) : Ryōsuke Ohashi (大橋 良介)

Fragestellung/Kommentierung (質問/コメント) : (苗字は alphabetisch/アルファベット順)

Tobias Bartneck (トビアス・バルトネック)

Sō Kimoto (木本 蒼)

Yûta Okada (岡田 悠汰)

Tomoki Sakata (阪田 朋紀)

主催・日独文化研究所 (JDK)、同志社大学文学部哲学科(Doshisha Universität)

共催・京都大学、関西大学、京都工芸繊維大学

ロルフ・エルバーフェルト教授は、その独創的にして精力的な哲学研究・哲学プロジェクトで、日本哲学（西田、西谷、道元）をも原語で読破し、自らの思索に取り入れて従来の「哲学」および「哲学史」概念を根本から問いに付す仕事によって、ドイツ哲学界に旋風を起こしています。またニルス・ヴァイトマン博士がチュービンゲン大学CIIS（学際的・間哲学的研究センター）の長として、且つ「国際インターカルチャー哲学会」会長として、インターカルチャー哲学の世界を牽引し、日本の哲学者との交流をも活発化していることは、同様に特筆に値する出来事です。この二人がともに、かつてドイツ現象学界で「ヴェルツブルク現象学」の峰を築き「日本的思惟」と創造的な対話を行なったハインリヒ・ロムバッハ教授の弟子であったことは、偶然ではないと思われます。エルバーフェルト氏とヴァイトマン氏は本年3月に、期せずして同時に京都に滞在されます。これを千載一遇の好機として、お二人を招いてシンポジウムを企画しました。ドイツ語と日本語が飛び交う自由な議論の場となるでしょう。皆様のご来場をお待ちしています。

二人の講演者はそれぞれ、下記の著書を参考文献として挙げていられます。

ロルフ・エルバーフェルト教授：

Programmatische Texte von Platon bis Derrida (Reclam 2006)

ニルス・ヴァイトマン博士：

Interkulturelle Philosophie. Aufgaben - Wege - Dimensionen (2016)

日時：2024年3月18日（月）14時 — 18時

場所：ゲート・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 小ホール
606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地3

アクセス→



言語：ドイツ語（と日本語）

開催方式：対面式 聴講無料 事前申し込み不要

お問い合わせ：公益財団法人 日独文化研究所

zaidan@nichidokubunka.or.jp